

# 仏事を学ぶ 第五回



## お経の意味②

当寺においては、通夜・葬儀・法事などの際に様々なお経をお唱えしています。ただ、お経の多くが漢文や陀羅尼（インドの言葉）のため、聞いただけではなかなかその意味を理解することはできません。前回とりあげた魔訶般若波羅密多心経に続き、当寺においてもご法事の際などによくお唱えしている「妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈」（観音経）についてご一緒に学びましょう。

【妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈原文】	
世尊妙相具	我今重問彼
佛子何因縁	名為觀世音
具足妙相尊	偈答無盡意
汝聽觀音行	善心諸方所
弘誓深如海	歷劫不思議
侍多千億佛	發大清淨願
我為汝略説	聞名及見身
心念不空過	能滅諸有苦
假使興害意	推落大火坑
念彼觀音力	火坑變成池

或囚禁枷鎖	手足被桎梏
念彼觀音力	釈然得解脫
呪詛諸毒藥	所欲害身者
念彼觀音力	還著於本人
或遇惡羅刹	毒龍諸鬼等
念彼觀音力	時悉不敢害
若惡獸圍遶	利牙爪可怖
念彼觀音力	疾走無辺方
蚊蛇及蝮蠍	氣毒煙火燃
念彼觀音力	尋声自回去
雲雷鼓掣電	降雹澍大雨
念彼觀音力	應時得消散
衆生被困厄	無量苦逼身
觀世妙智力	能救世間苦
具足神通力	廣修智方便
十方諸國土	無刹不現身
種種諸惡趣	地獄鬼畜生
生老病死苦	以漸悉令滅
真觀清淨觀	廣大智慧觀
悲觀及慈觀	常願常瞻仰
無垢清淨光	慧日破諸闇
能伏災風火	普明照世間
悲体戒雷震	慈意妙大雲
澍甘露法雨	滅除煩惱焰
諍訟經官処	怖畏軍陣中
念彼觀音力	衆怨悉退散
妙音觀世音	梵音海潮音



爾時持地菩薩即從座起。前白佛言。世尊。若有衆生。聞是觀世音菩薩名自在之業。普門示現神通力者。當知是人功德不少。佛說是普門品時。衆中八萬四千衆生。皆發無等等阿耨多羅三藐三菩提心。

【現代語訳】  
仏陀世尊よ、あなたは妙なるお姿を備えておいでです。私は今、重ねて彼の観音菩薩について質問致します。観音様はどのようなご縁で観世音という名前なのでしょうかと。妙なるお姿を備えたもう尊きお方は、歌でもって無尽意菩薩にお答え下さいました。君よ、観音菩薩の働きはよくあらゆる所にこたえて行くことをよく聞きたまえ。その偉大な誓願は、海のように深く、どんなに時間をかけても、人間の物差しでは計ることができません。なぜなら千億程も多くの仏に仕えて汚れなき祈りを起こしているからです。私（仏陀）は皆さんの為に簡略に説明しましょう。観音の名を聞き、姿を見て、心に思い続けて、忘れることがなければ全ての苦惱は鎮まるでしょう。たとい、悪意を持って大きな火の穴に突き落とされても、彼の観音菩薩の力を念じ得るならば、火の穴は変わって池のようになるでしょう。あるいは、大海原に漂流して竜や魚や様々な鬼の危難にであっても、彼の観音菩薩のお力を念ずる事ができれば、大波も飲み込む事はできません。あるいは、世間の中心にあるスメール山の峰にいて、人に突き落とされても、彼の観音菩薩の誓願力を念ずることができれば、太陽のように空中にとどまる事ができるでしょう。あるいは、悪人に追われてダイヤモンドのように堅い岩山から落ちたとしても、彼の観音菩薩の誓願力を念じうれば、

毛筋ほども怪我をする事はないでしょう。あるいは、敵や強盗に取り囲まれて、それぞれが刀を持って危害を加えようとしたときに、彼の観音菩薩の誓願力を念ずる事ができれば、すべては全てはただちに慈悲の心を起こすでしょう。あるいは、政治権力の迫害にあつて処刑される時にあたり、命落とさんとするとき、彼の観音菩薩の誓願力を念ずる事ができれば、刀はたちまち粉々に折れるでしょう。あるいは、権力によつて捕らえられ、鎖に縛られ、手枷・足枷に縛られたとしても、彼の観音菩薩の誓願力を念ずる事ができれば、それらはほどけて解放されるでしょう。呪いと毒薬で危害を加えられようとしても、彼の観音菩薩の誓願力を念ずる事ができれば、それらはかえつて加害者自身について行くでしょう。あるいは、恐ろしい鬼・毒竜・多くの幽霊などに出会つても、彼の観音菩薩の誓願力を念ずる事ができれば、ただちに皆、故意に危害を加える事はないでしょう。若しも、恐ろしい獣に取り囲まれて鋭利な爪や牙の恐怖に出会つても、彼の観音菩薩の誓願力を念ずる事ができれば、それらはたち所に遠くへ走り去るでしょう。トカゲ・蛇・まむし・さそりの毒気が火がもえるように迫つてきても、彼の観音菩薩の誓願力を念ずる事ができれば、その声にしがたつて行つてしまつてしまうでしょう。雲に覆われ、雷が鳴り、稲妻が走り、あられが降り、大雨が降つても、彼の観音菩薩の誓願力を念ずる事ができれば、ただちに雲散霧消する事ができるで

しょう。人々よ、困難災難に会つて様々な苦しみが迫つてきた時、観音様の不思議な知恵の力は必ず世間の苦しみを救つて下さるでしょう。人間の観念を越えた不思議な共鳴の力を備えていて、広大な知恵の手立てを巡らせて、東西南北、東西南東北西北、上下の十方のあらゆる世界に、出合いの国として姿を現さないという事があります。様々な多くの悪しき世界と、出口のない苦しみの世界、欲求不満の餓鬼世界と、節度のない動物的世界と、人生の不安に悩む人間世界など、どのような苦しみもことごとく消滅させてくれるでしょう。真実の共鳴、無我なる共鳴、大いなる悟りの共鳴、悲しみ痛みへの共鳴、悲しみの共鳴がいつでも働いています。だからいつでも思い続け、あこがれ続けるべきです。自我に汚される以前の無心無我の命の光は、いつでもどこでも包んでいます。智慧の太陽はあらゆる愚かさの闇を破り、必ず災いの現象たる風火を折伏して、ひろくあかるく、人間世界を照らして下さい。痛みへの共鳴が働きだした姿たる慎みの生き方は、雷鳴が天地を揺るがすがごとく慮らずにはいられない優しさは、炎天に素晴らしい雲のように安らぎをもたらし、命と心を育む教えの雨を注いで愚かさの炎を滅ぼしてくれます。裁判沙汰があつて役所においても、戦争があつて戦地の恐ろしさの中でも、あの観音菩薩の誓願力を念ずることができたら、あらゆる敵・恨みごとは全て皆、逃げて行つてしまつてしまうでしょう。観音を念じ、

観音が呼び掛けるその声は不思議に心を静めます。世間の苦しみに共鳴するところから出てくる声です。煩惱の汚れを越えた無心無我の声です。海鳴りのように全てを包み許す声です。人間世界の欲望や損得を超えた声があるのです。このようなわけで、必ずいつでも念じるべきです。心に疑いを起こしてはなりません。観音菩薩という清浄な菩薩は、苦しみと死の恐怖とにおいて必ずあなたにとって拠り所となるでしょう。観音様は、あらゆる修行の成果を完成して、備えて、慈しみのまなざしで以て迷える人々を見守っています。悟りの福分は海のように集まって無限です。それゆえにまさに観音様の御み足を我が頭頂にいたたくように礼拝すべきです、と仏陀は言われた。その時、悟りと迷いと異なる次元の世界に橋渡しする『持地菩薩』は、ただちに立ち上がって、前に進み出て仏陀世尊に申し上げました。世尊よ、もし苦しみの人々が、この観音菩薩の章に説く、何のこだわりもなく自由に働き、何時でも何処でも誰の前にも現れる不思議の力を聞いて信じる者があれば、まさに知るべきです。この人の修行の成果は決して少なくないでしょう、と。仏陀が、この世尊の不思議な働きを説いた章を話されたとき、集まっていた八万四千人の人々は皆、比べるものなき、悟りを求める心を起こしたのでした。

※参考：『傍訳妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五 鳩摩羅什三蔵訳』（著：中野東禅）